

平成31年第5回定例公安委員会会議録

開催日時 平成31年2月14日(木) 午前11時15分～午後2時50分

開催場所 警察本部

第1 定例会議

1 開催時間 午後1時30分～午後2時15分

2 出席者

公安委員会 増谷委員長 衣笠委員

警察本部 佐野警察本部長 伊貝警務部長 灘部首席監察官
青木生活安全部長 清水刑事部長 中林交通部長
岸田警備部長 妹尾情報通信部長 加藤警務部参事官

(事務局等～渡邊公安委員会補佐室長、村田広報官)

3 議題事項

「平成30年政策評価報告書」及び「平成31年推進・評価計画書」の策定(警務部)

警察本部

鳥取県警察における政策評価は平成17年から毎年実施しており、県民の視点に立った効率的かつ効果的な警察活動を推進し、その結果を県民に公表して理解を得ることを目的としている。

重点目標は、総合的な犯罪抑止対策の推進、重点犯罪等の検挙と組織犯罪対策の推進、交通死亡事故抑止に資する総合対策の推進、テロの未然防止と緊急事態対策の推進及び警察活動基盤の充実強化である。

平成30年の政策評価報告書の概要は、次のとおりである。

総合的な犯罪抑止対策の推進については、平成30年中の刑法犯認知件数は2,110件であり平成16年以降15年連続減少したほか、特殊詐欺は、認知件数23件、被害額約1,503万円と、前年比で認知件数、被害額共に大きく減少した。

重要犯罪等の検挙と組織犯罪対策の推進については、鳥取署管内で発生した一般住宅対象の強盗事件を検挙したほか、米子署管内で発生したタクシー強盗事件、

鳥取署管内で連続発生した児童対象の強制わいせつ事件等を検挙するとともに、公営住宅からの暴力団排除などの暴力団排除対策や、暴力団員の離脱支援による社会復帰対策の推進など、総合的な暴力団排除活動を推進した。

交通死亡事故抑止に資する総合対策の推進については、総合的な交通事故抑止対策の推進により、交通事故件数、負傷者数は平成17年以降14年連続で減少するとともに、交通事故死者数は20人と、前年比で6人減少した。

テロの未然防止と緊急事態対策の推進については、「鳥取県警察国際テロ対策強化要綱」に基づき、爆発物販売業者等に対する管理者対策等国際テロの未然防止等に向けた各種対策を推進したほか、緊急事態に迅速かつ的確に対処するための総合的な諸対策を推進した。

警察活動基盤の充実強化については、現場執行力の高い警察官の育成のため、各部門と連携して実戦的総合訓練等を継続実施したほか、警察活動や犯罪情勢等に関する的確な広報の実施や、「鳥取県警察職員ワークライフバランス等推進計画」において設定される年次有給休暇等の年間平均取得日数17日以上に対し、平均取得日数が17.2日となり、目標を達成した。

平成31年の重点目標も同一であり、今後、鳥取県警察のホームページに「平成30年政策評価報告書」及び「平成31年推進・評価計画書」の概要を掲載するほか、各警察施設の窓口に備え付けて公表し、その内容に関する県民からの意見、要望等を受け付ける。

委員

事前に説明を受けており、公安委員会の意見も反映されている。このとおり決裁する。本年は警衛やG20大阪サミット等も予定されているため、例年以上にテロ対策を推進していただきたい。

4 報告事項

- SNS利用に起因する犯罪被害等防止対策会議の開催（生活安全部）
- 第3回腹話術技術向上コンクールの開催（交通部）
- 第14回「竹島の日」記念式典に対する鳥取県警察の対応（警備部）

- (1) SNS利用に起因する犯罪被害等防止対策会議の開催（生活安全部）

警察本部

この会議は、SNS利用に起因する犯罪被害等を防止するため、第1回目の開催となった昨年に引き続き、県教育委員会だけでなく県内各市町村の教育委員会等からも出席を求めて開催した。

昨年は警察本部において行ったが、遠方の市町村教育委員会の欠席が散見されたことなどの理由から、本年は多くの市町村教育委員会等の関係者が出席するこ

とで実効ある会議とするため、東・中・西部に会場を設け、東部会場は1月29日、中部会場は1月23日、西部会場は1月28日に開催した。

会議では、警察からSNS利用に起因する犯罪被害状況の現状、少年非行状況等について説明した後、警察、国などの取組について紹介した。また、各市町村教育委員会等が、管轄する学校において取り組んでいる施策や今後の取組予定等について報告したほか、意見交換を行った。

今後も、関係機関等と連携した街頭広報等啓発活動の実施、学校等と連携した非行・被害防止教室の開催、保護者会等への警察職員の参加による啓発等に取り組んでいく。

委員

関係者が参加しやすいよう、県内3か所で開催されており良い。

SNS適正利用に関する啓発については、保護者に対する啓発が必要で、保護者に響くような啓発をすることが大切である。

警察本部

警察としてはSNSに起因する事犯の被害防止に向けた対応をしており、今後も関係機関と連携しながら啓発活動を行っていききたい。

委員

インターネット上の有害環境から若者を守るため、あらゆる機会を通じて、繰り返し啓発を行っていただきたい。

(2) 第3回腹話術技術向上コンクールの開催（交通部）

警察本部

県警察では、平成25年に鳥取県警察交通安全腹話術隊（セイフティ・ハミング・バード）を発足させ、県下各警察署において登録隊員が活動している。

平成29年から、隊員の平素の活動成果を披露するとともに他所属の隊員の腹話術演技を見学し、より効果的な交通安全教育に資する腹話術技術のスキルアップを図ることを目的としてコンクールを開催している。

今回は、2月8日に自動車運転免許試験場において開催し、全警察署から合計9組12人が出場した。

演技内容は、「交通安全」を呼び掛けるものをテーマとし、講習対象は子ども、高齢者等自由で、腹話術技術、講習内容、独自性等を審査した。

審査の結果、第1位は「ゲゲゲの交通安全」をテーマに、子どもの交通安全について鬼太郎ソングなどを織り交ぜながら楽しく分かりやすい演技を実施した境港警察署であった。第2位は「高齢運転者の交通事故防止」をテーマに、高齢運転者が注意すべき事項を4つのポイントに分けて分かりやすく学べる演技を実施

した倉吉警察署であった。第3位は「子どもの交通事故防止」をテーマに、司会進行役と腹話術との軽快なやり取りで道路の横断の仕方や信号機の意味など、子どもの交通安全のポイントを楽しく学ばせる演技を実施した智頭警察署であった。

今回は腹話術歴が1、2年という出場者が多かったが、それぞれの個性や地域性を生かして分かりやすく工夫した講習を実施しており、今後の活躍が期待できた。腹話術講習の派遣要請も多くあることから、今後も登録隊員を増やしていきたい。

委員

腹話術による講習のニーズは、どの年代が多いか。

警察本部

保育園や小学校が多い。

委員

腹話術を用いた講習は、話を聞くだけの講習よりも受講者に響きやすいと思う。良い広報啓発活動だと思うので、スキルアップし、より良い講習にしていきたい。

委員

警察官になる前に腹話術の経験がある者はいるか。

警察本部

ほとんどの者が警察官になってから腹話術を始めており、経験豊富な警察官が、研修会等において指導している。

委員

特に子どもに対する講習で腹話術を用いると、子どもの反応が違うと思う。今後も効果的な講習を行っていただきたい。

(3) 第14回「竹島の日」記念式典に対する鳥取県警察の対応（警備部）

警察本部より、2月22日に松江市内において開催予定である第14回「竹島の日」記念式典に対する鳥取県警察の対応について報告があった。

委員

有事に備え、適切に対応していただきたい。

5 その他

(1) 交通死亡事故の発生（交通部）

警察本部

2月12日午前7時42分頃、倉吉市関金町地内の国道313号において車両同士の衝突事故が発生し、運転していた男性が亡くなりました。

本事故の発生を受けて、2月12日から本日までの間、交通死亡事故抑止緊急対策として幹線道路を始め、郊外や山間部においても街頭活動の強化、広報啓発等を実施し、県民に対して注意喚起を行っている。

委員

この事故の後、防災無線で交通安全の広報が流れているのを聞いた。交通安全に対する意識付けが大切だと思うので、早い対応で良いと思う。

委員

今年は降雪量が少なく、スリップなど雪の影響による交通事故は少ないと思うが、現時点での交通事故の発生状況はどうか。

警察本部

件数は減少傾向である。

(2) その他

委員

私が乗っていた列車にベテランの警察官が警乗していた。警察官は途中の駅で降り、同じ駅で高齢女性とその女性を介助する女性が降りて階段に向かって歩いていたところ、警察官が声を掛け、エレベーターの方に案内していた。

小さなことであるが、県民に接する際には、このような心遣いが大切である。

県警察として若手育成に取り組んでいるが、このような心遣いができる警察官になっていただきたいと思う。

第2 その他の公安委員会活動

1 意見の聴取

運転免許課から、道路交通法に基づく意見の聴取4件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

2 聴聞

運転免許課から、道路交通法に基づく聴聞1件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

3 事前説明

SNS利用に起因する犯罪被害等防止対策会議の開催

4 報告事項

人事案件

5 決裁

「平成30年政策評価報告書」及び「平成31年推進・評価計画書」の策定

6 視察等

- ・ 県下管内凶コンクール審査
- ・ DVD視聴（腹話術技術向上コンクール）

7 公安委員会委員間の事前検討・協議等

8 公安委員会補佐室からの事務連絡等

公安委員会補佐室から当面の行事予定等について確認と説明があり、了承した。